

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2021年												2022年														
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月 ~5日	6月 ~12日	6月 ~19日	6月 ~26日	7月 ~3日	7月 ~10日	7月 ~17日	7月 ~24日	7月 ~31日	8月 ~7日
カンピロバクター	114	65	137	114	169	115	122	85	45	63	84	78	76	34	43	69	64	14	12	38	35	36	30	21	7	5	7
病原性大腸菌	39	25	52	61	55	64	63	45	42	102	62	44	29	41	37	62	88	24	24	27	15	4	9	5	7	5	9
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	2	3	2	0	3	2	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	4	2	3	0
サルモネラ	6	5	3	1	5	8	10	23	9	25	7	4	4	3	7	5	5	2	0	1	0	3	2	1	4	6	2
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	16	33	19	39	25	17	15	20	26	21	12	35	12	25	20	32	4	2	8	8	5	7	4	3	7	7
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	10	15	25	31	13	14	19	10	18	8	18	19	10	9	19	28	3	2	2	1	3	6	4	1	3	4
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	2	1	3	4	4	0	4	5	3	3	3	3	0	0	0	1	1	0	0	2	1	0	1	1	1	0
ロタウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	1	2	1
ノロウイルス	4	5	6	11	13	9	0	0	0	0	0	2	4	0	7	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0

* ()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和4年第31週(8月1日~8月7日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	1	結核	1					1		
三類	5	腸管出血性大腸菌感染症	5					2	3	
四類	7	E型肝炎	1					1		
		日本紅斑熱	3					1	2	
		レジオネラ症	3		1	1		1		
		カルバペネム耐性腸内細菌感染症	3	2					1	
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1					1		
		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2					2		
		梅毒	13		1			10		2
新型インフルエンザ 等感染症	27,645	新型コロナウイルス感染症	27,645	2,960	2,303	2,274	520	13,351	2,088	4,149

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町
北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

■コメント

1 新型コロナウイルス感染症

第31週に13,351件の報告がありました。これまでで最も高い感染レベルを更新し続けています。

高齢者や基礎疾患のある方が感染すると重症化リスクが高まります。お盆の帰省等で高齢者の方等と会う場合は、マスクを着用し、室内ではこまめに十分な換気を行うなど、より一層の感染対策を心がけましょう。

これ以上の感染拡大を防止するためには、一人一人が、感染予防対策を徹底することが大切です。

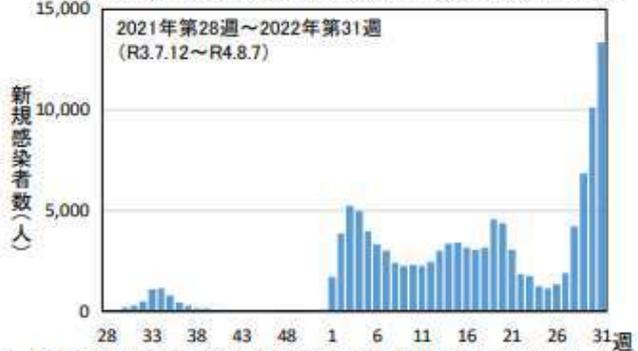
2 RSウイルス感染症

定点当たり5.87人の報告があり、多い状況が続いています。生後数カ月までの乳児が初感染した場合は重症化しやすいため、咳等の呼吸器症状がある人との接触を避けるなどの注意が必要です。おもちゃや手すりなど手の触れる部分の消毒、手洗いの励行など、感染予防対策を心がけましょう。

3 ヘルパンギーナ

定点当たり1.22人の報告があり、増加が続いています。手洗いの励行、オムツの適切な処理など、感染予防対策を心がけましょう。

新型コロナウイルス感染症新規感染者数の推移(広島市)



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号
フィリ	インフルエンザ	-	-	0.12		小児科	流行性耳下腺炎	1	0.04	0.03	
小児科	咽頭結膜熱	4	0.17	0.46		小児科	RSウイルス感染症	135	5.87	2.66	→
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13	0.57	1.35		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	46	2.00	3.24	↘	眼科	流行性角結膜炎	3	0.38	0.53	
	水痘	1	0.04	0.15		眼科	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	67	2.91	2.71	↘	眼科	無菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	伝染性紅斑	1	0.04	0.11		基幹	マイコプラズマ肺炎	-	-	0.03	
	突発性発しん	4	0.17	0.38		基幹	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	28	1.22	0.73	↗	基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	36
小児科定点数	23
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	67	80歳代
3	腸管出血性大腸菌感染症	2	15	20歳代・O26・O157、70歳代・O血清群不明
4	E型肝炎	1	2	40歳代
4	日本紅斑熱	1	2	40歳代
4	レジオネラ症	1	23	70歳代・市外
5	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	4	30歳代
5	梅毒	10	199	10歳代・1人、20歳代・4人、30歳代・2人、40歳代・1人、50歳代・1人、60歳代・1人
5	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2	10	70歳代、90歳代